

## 第10章

# MHL 教育プログラムの 活動と成果を評価する

### 1 節 科学的なプログラム評価の必要性

：効果的な MHL 教育プログラムを導入・維持・発展させるために

#### 1 項 科学的根拠に基づく実践の意義とプログラム評価の必要性

教育を実施しても、教育をやりっぱなしで評価をせずに終われば、生徒にいかに波及して、どのような教育効果があったのかわからないままです。教育が実施された場合に、その効果を実感できるのは、学校で生徒の変化を観察できる教員でしょう。

しかし外から学校へと出向いて教育を実施した場合には、生徒と普段向き合う機会がないだけにその効果は実感できません。教育効果がわからない場合、当初に立てた目的が果たされたのかもわかりませんし、評価を踏まえてよりよい教育プログラムへと発展させることに限界が生じます。そこで私たちは教育効果があったかどうかを、科学的に検証するプロセスをたどってきました。プログラム評価は教育の発展と有効性の検証に必要であるといえます。なお第10章の内容は「(篁宗一、2010)」の結果を引用しています。

#### 2 項 実践の中で取り組むプログラム評価

ここでは実際に行ってきたプログラム評価の紹介をします。

島根県では中学生を対象としたメンタルヘルス教育を実施し、3年間にわたる教育効果を、介入群と対照群の比較対照試験の研究デザインによって評価しました。教育プログラムの最適な評価を行うためにインパクト理論に基づきモデルを構築し、アウトカムの指標

を健康教育の概念によって仮説を立てました（図1）。

**【仮説】**「精神健康についてのとらえ方」、つまり「知識」や「意識」、「態度」の向上は、精神的不調時の援助希求に関する「行動」を促進する。

### 3項 実践の中でのモニタリング、評価調査

精神的不調に陥った思春期児童の早期介入を目的として、主要アウトカムは精神的不調時の援助希求に関する「行動」とし、それに影響を及ぼす副次的なアウトカムを「知識」、「意識」、「態度」に対応する各概念として仮定し、評価を実施することとしました。表1にあげるのは主に「知識」「態度」「行動」の測定尺度の分類です。

### 4項 まとめ：教育プログラムの効果から

中学3年間にわたる長期のフォロー調査の結果から、図2のような結果が得られました。黒の折れ線が教育プログラムを実施した介入群、白が実施していない対照群です。介入群には1年から3年まで、各年度にプログラムを実施しました。

中学生に対するメンタルヘルス教育による早期の援助希求に関する知識、態度、行動に対する介入効果について3年間にわたる比較対照試験により評価した結果、中学生が悩みをもった際に援助希求行動をとる割合は12カ月後に、特に標的とする精神健康度が低い群（GHQ12が4点以上）では12カ月および24カ月後に、介入によって有意に増加しました。つまり私たちが実施した教育が援助希求「行動」に影響することがわかりました。

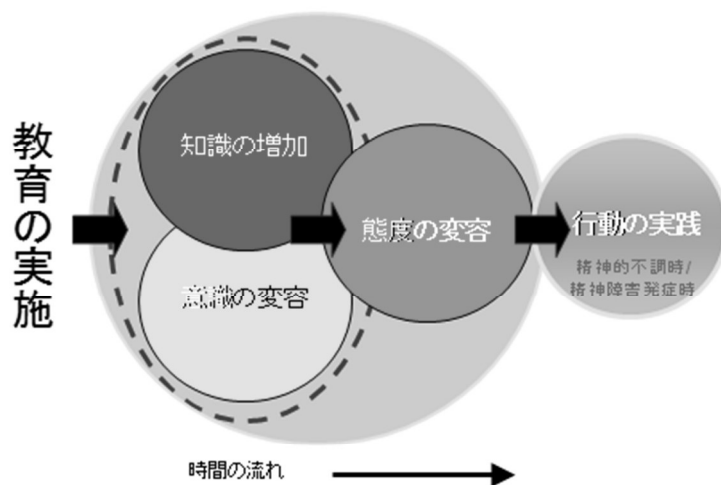


図1 プログラム理論のモデル

表 1 健康教育概念ごとの教育による効果指標に対応した測定尺度

健康教育概念	教育による効果の指標	測定尺度・変数
知識	①精神疾患知識の向上	精神障害の知識度：4項目
	②専門相談機関の知識の向上	専門相談機関に関する知識度：8項目
意識	③専門相談機関のイメージ変容	こころの相談に関するイメージ：15項目
	④精神障害への偏見の減少	消極的態度尺度：10項目
	⑤精神的不調の自覚	精神障害の罹患可能性の意識：4項目 GHQ：12項目 悩みの有無：1項目
態度	⑥援助希求態度の変容	専門的・心理的援助への態度尺度 (Attitude toward Seeking Professional psychological Help scale ; ASPH)：12項目
		専門相談機関への相談意向態度：12項目
行動	⑦援助希求行動の実践	悩みがあった際の対応として、専門家および非専門家に対する相談経験の有無：8項目

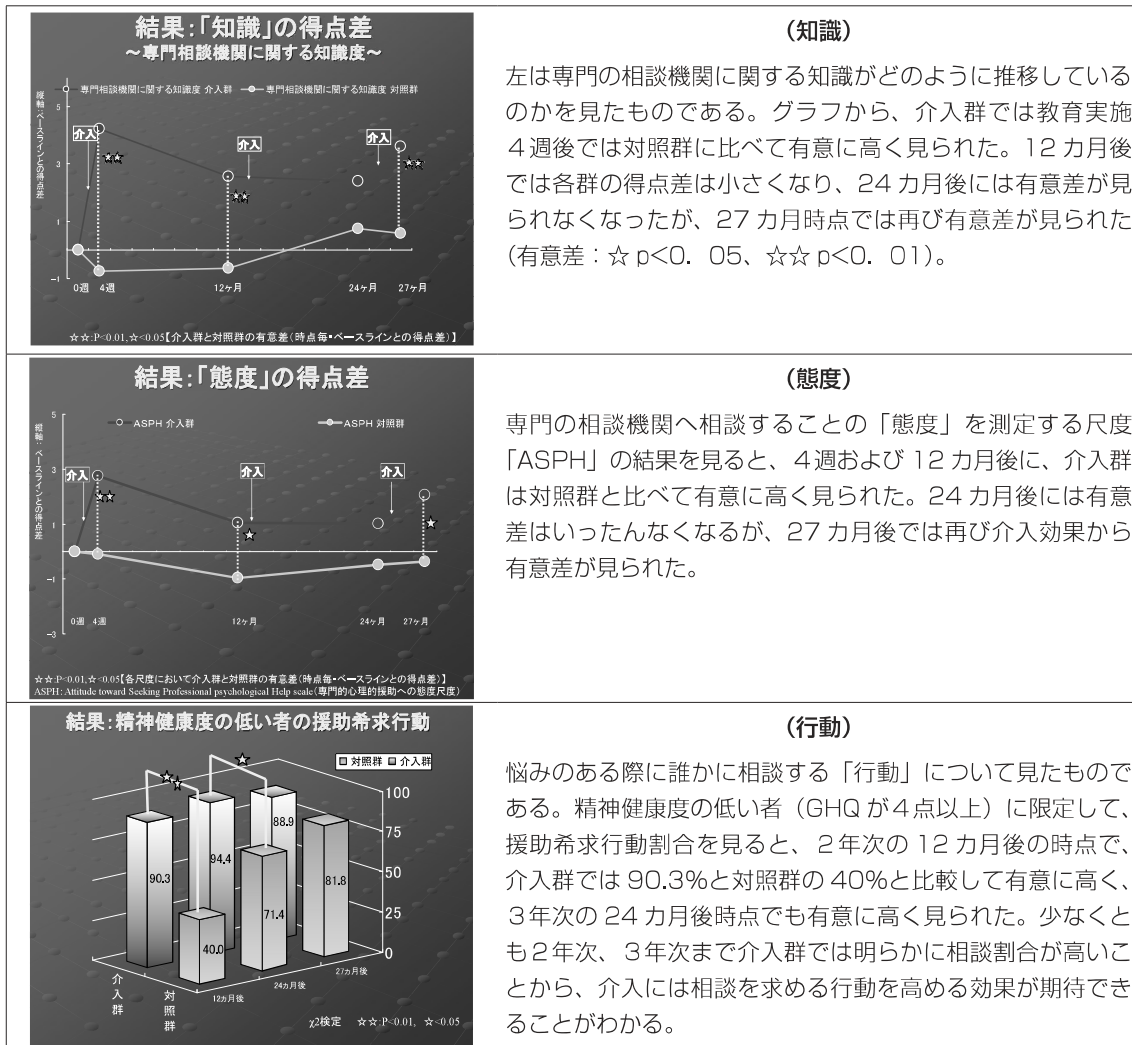


図 2 教育プログラムの効果

## 2節 ニーズアセスメントとアウトカム評価

### 1項 ニーズアセスメントとアウトカム評価を行う意義

私たちがこれまで進めてきたメンタルヘルス教育の開発と実施は、その効果について評価する研究的要素をもっていました。具体的には、客観的なデータとして質問紙などのアンケートを教育の前後に複数回実施してきました。事前の調査ではニーズアセスメントを行い、事後の調査ではアウトカム評価を行いました。

- ニーズアセスメント**：解決すべき課題を把握し、教育の内容が適切かどうかを判断する。
- アウトカム評価**：教育を実施することで得られた教育効果を査定する。

### 2項 ニーズアセスメントの領域

主に生徒のニーズは図3、図4のようなモデルを組み立てて、それぞれの目標に応じた尺度を構成し、メンタルヘルスリテラシーに関連するアウトカム指標を測定してきました。

以下は主なニーズアセスメントとアウトカムの指標として用いた「知識」「意識」「態度」「行動」で用いた尺度の説明です。

#### 1) 「知識」概念を測定する尺度：【専門相談機関に関する知識度尺度】

こころの専門相談機関に関する知識を測定することを目的として、スクールカウンセラー・精神科を有する病院・保健所など8種のこころの専門相談機関についての知識を尋ねました。各機関について「よく知っていてイメージできる（4点）」から「まったく知らないのでイメージがわからない（1点）」の4件法で評価しました（合計32点満点）（Cronbachの $\alpha$ 係数は0.84）。

#### 2) 「意識」概念を測定する尺度：【精神健康状態】

精神健康度を測定するため、GHQ12項目を用いてGHQ得点法で評価しました。得点が高いほど精神健康度が悪いことを示します。なお、精神健康度が低い者としてGHQ4／3点をカットオフポイントとし、4点以上を精神健康障がいの高リスクが高い群としました（合計12点満点）（Cronbachの $\alpha$ 係数は0.84）。

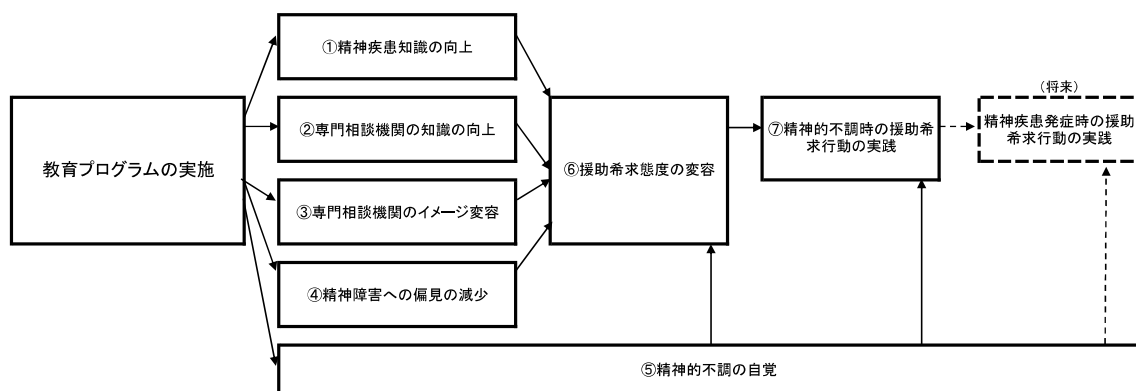


図 3 精神保健教育におけるプログラムインパクト理論

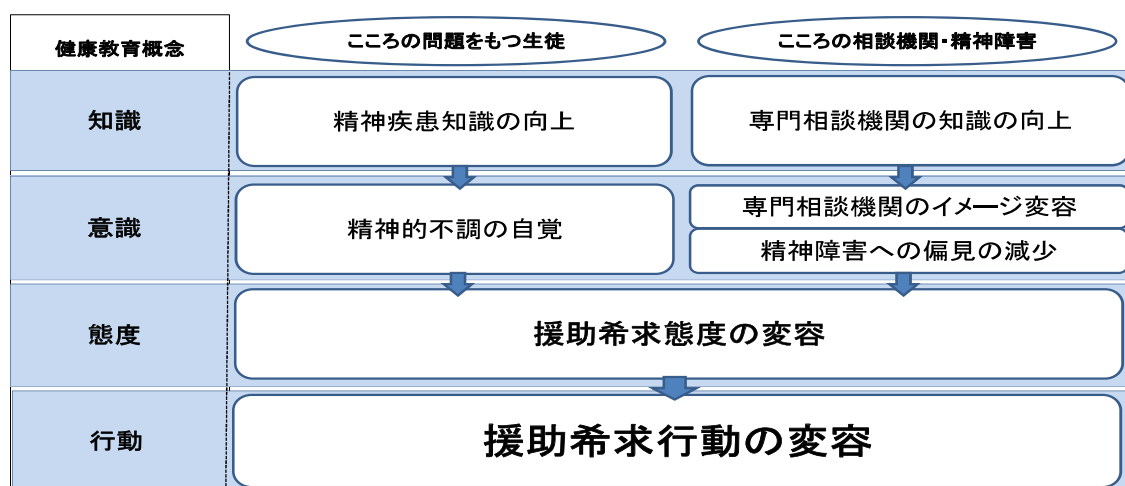


図 4 健康教育の概念に対応する教育の効果指標

### 3) 「態度」概念を測定する尺度：【ASPH：Attitude toward Seeking Professional psychological Help scale（専門的心理的援助への態度尺度）】

メンタルヘルスの不調時において、専門職への援助希求行動を行うかどうか、その態度を計測する尺度としては、Fischer & Turner が開発した「Attitude toward Seeking Professional psychological Help scale」や、それを簡略化した Fischer & Farina があります。本研究では「専門相談機関への相談意向態度尺度」の並存妥当性を確認するという目的を兼ねて、Fischer の尺度を笹が翻訳したものを、中学生でも理解しうる平易な日本語にしたうえで補助的に使用しました。なお、オリジナルの 10 項目の尺度に、家族が反対した場合の意向や、友人が悩んでいた場合の意向の 2 項目を加えて使用していました（合計 36 点満点）。「そう思う（4 点）」から「そう思わない（1 点）」の 4 件法（5 項目で逆転項目）で評価し、得点が高いほど専門相談機関への相談態度が積極的であることを示しています（合計 48 点満点）（Cronbach の  $\alpha$  係数は 0.65）。

#### 4) 「行動」概念を測定する尺度：【援助希求行動】

悩みがあった際の対応として、専門家および非専門家に対する相談経験の有無を尋ねました。

### 3項 ニーズアセスメントとアウトカム評価を行う時期

教育の質の向上には、事前の準備に加えて事後のフォローも重要になります。つまり基本的なニーズアセスメントとアウトカム評価を行う時期は事前事後の組み合わせによるものです。その時期は、学校側との調整になります。基本的な評価の時期は図5の通りです。

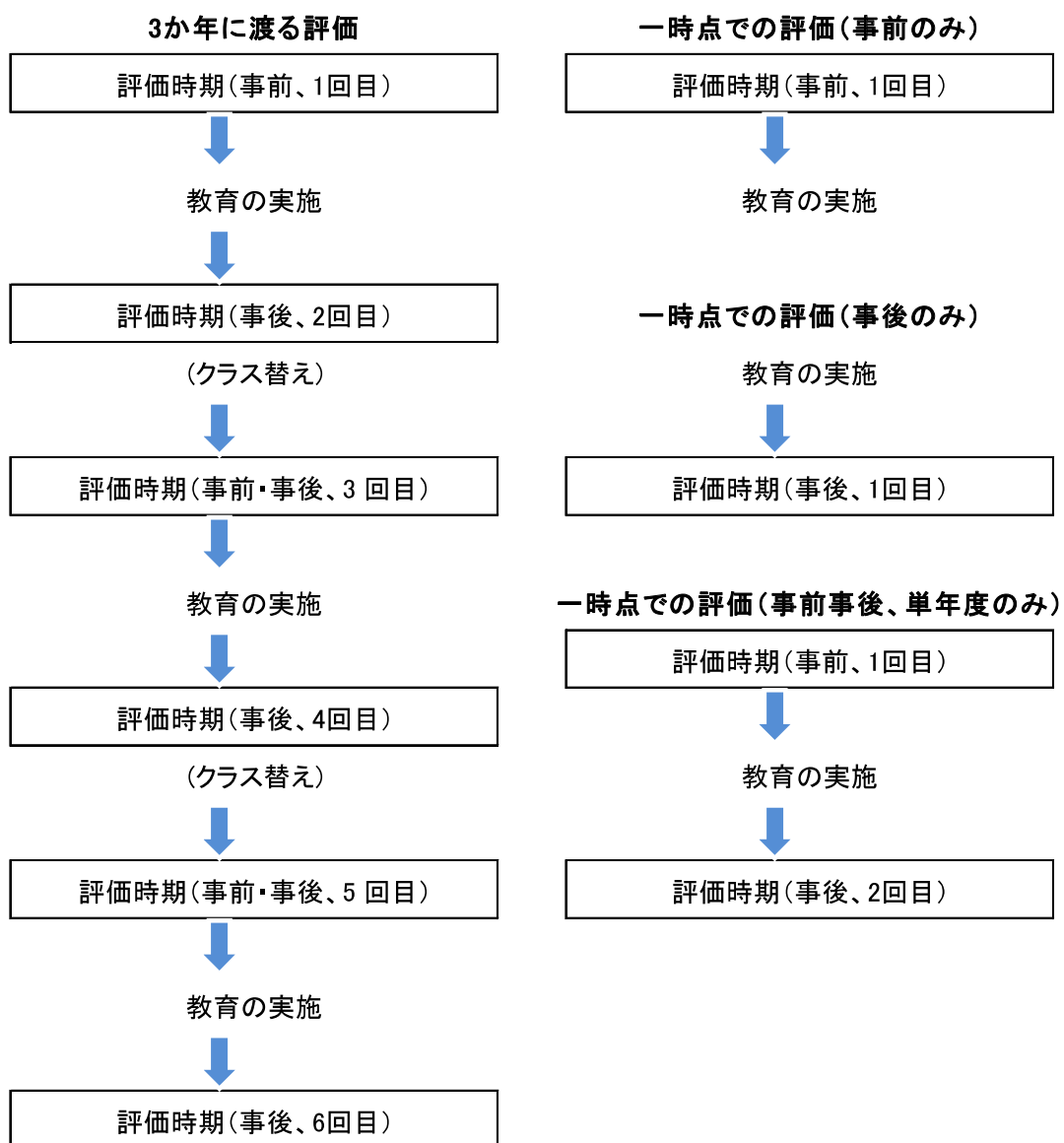


図5 基本的な評価の時期

また評価には、教育者である先生方から、「もっとこうすればよいのに」といった助言が得られる場合も含まれます。アンケート結果だけではなく、得られた意見は大切に受け入れるべきでしょう。授業後の意見は次の授業に取り入れ、教育に活かすことで、質は徐々に上げていくことができます。

また教育効果の評価で高い結果が得られれば、再現性も保てるように努めるとよいでしょう。私たちは実施したすべてのMHL教育を記録してきました。ビデオカメラなどで録画を行いながら、質を均一に確保することも大切です。

## 3節 プロセス評価とは

教育プログラムの本来の目的が達成されるためには、作成されたプログラムが意図したように対象となる生徒たちに実施されなければなりません。教育プログラムの運営に関して、それがうまく機能しているのかどうかを確かめることを「プログラムのプロセス評価」といいます。

### 1項 プロセス評価を行う意義・目的

プロセス評価はプログラムの実施によって、意図するように生徒に提供されているのかを検証することを目的とします。その意義は検証によって教育プログラムの一定の質を確保できることにあります。

教育を受ける生徒が教育プログラムをどの程度受けているのかを検証するために、計画したプログラムと実際に受けたプログラムの比較を行うこととします。主に以下の2点から行います。

#### ●プロセス評価：

- ・教育プログラムが対象とする生徒たちに届いているのかどうか。
- ・教育プログラムが当初想定しているプログラム実施規模や、効果が得られる形態で行われているのかどうか。

標的とする地域へ教育が届けられているのかどうかを見るには、対象校の確保、対象人数の確保、対象の学年、確保された時間、参加度などの実施状況を検証する必要があります。

教育プログラムが当初想定しているプログラム実施規模や、効果が得られる形態で行わ

れているのかどうかを見るには、教室などの部屋が確保され、教育が行われる環境の調整、教育の研修を終えたスタッフが配置されるかなどの教育の質を検証する必要があります。私たちの研究会では、プロセスを評価するためのフィデリティ尺度（忠実度を測定するもの）を作成しました（表2）。

表2 参考となる学校 MHL 教育プログラムのプロセス評価尺度（フィデリティ尺度）案

[2006. 9, MHL 研究会にて吉田光爾作成]

## 【実施体制について】

1	<b>プログラムのコーディネーター（外部実施）</b> 1人あるいは複数の担当者がプログラムの調整役として指定されており、以下の業務を行う。（実施スタッフ内で） <input type="checkbox"/> 調査の管理 <input type="checkbox"/> 教職員への説明と調整 <input type="checkbox"/> 見学先の機関との調整 <input type="checkbox"/> 保護者向けの説明と準備	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
2	<b>学校側に窓口が存在する</b> <input type="checkbox"/> コーディネーターによる教職員・保護者への説明のための調整 <input type="checkbox"/> 見学への同行 <input type="checkbox"/> ボランティア保険の用意 <input type="checkbox"/> トラブルの際の調整 <input type="checkbox"/> コーディネーターと月1回程度連絡をとっている	コーディネーターがない	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに1つ該当する	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに2つ該当する	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに3つ該当する	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに4つ該当する
3	<b>プログラムのコーディネーター（学校実施）</b> 1人あるいは複数の担当者がプログラムの調整役として指定されており、以下の業務を行う。 <input type="checkbox"/> 他の教職員への説明と調整 <input type="checkbox"/> 調査の直接の管理あるいは外部への委託・連絡 <input type="checkbox"/> 見学先の機関との調整 <input type="checkbox"/> 保護者向けの説明と準備 <input type="checkbox"/> ボランティア保険の用意	コーディネーターがない	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに1つ該当する	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに2つ該当する	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに3つ該当する	学校側にコーディネーターが存在しチェックボックスに4つ該当する
4	<b>関係作り</b> 学校での関係作りが、以下の条件を満たすようなシステムとして行われている。 <input type="checkbox"/> 校長など管理者と事前ミーティングを行っている。 <input type="checkbox"/> 学校側のニーズや要望がきかかれている。 <input type="checkbox"/> 特にニーズが多い生徒についての情報が共有されている。 <input type="checkbox"/> プログラムを実施するクラスの担任とミーティングを行っている	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する



5	<b>スタッフの実施体制</b> 実施スタッフが以下の構成を満たし、十分な人員を満たしている。 <input type="checkbox"/> 講師 <input type="checkbox"/> アシスタント <input type="checkbox"/> 当事者 <input type="checkbox"/> オブザーバーとしての教職員・SC	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
6	<b>学校の中の位置づけ</b> プログラムは何らかの公的な位置づけをもって行われている。 <input type="checkbox"/> 教育委員会による推薦・承認事業 <input type="checkbox"/> 以下のような授業の枠組で行われる（例） ・総合的な学習としての授業 ・保健体育としての授業 ・ホームルームの時間としての授業など <input type="checkbox"/> 連絡・案内は学校側から行われる	チェックボックスに1つ該当する	/	チェックボックスに2つ該当する	/	チェックボックスに3つ該当する
7	<b>プログラムの関係者への周知</b> プログラムは適切に関係者に事前に周知される <input type="checkbox"/> 生徒に対する文書での通知 <input type="checkbox"/> 保護者に対する文書での通知 <input type="checkbox"/> 一般教職員に対する説明会 <input type="checkbox"/> 養護教諭・SC に対する説明	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
8	<b>生徒との関係作りについて</b> 主たるスタッフは事前に生徒との関係作りを行う <input type="checkbox"/> SC・相談員などの形で学校との連携がとれている <input type="checkbox"/> プログラムの事前に、生徒との顔合わせ・自己紹介などを行う	チェックボックスに該当するものがない	/	チェックボックスに1つ該当する	/	チェックボックスに2つ該当する
9	<b>見学先機関との連携</b> 事前に見学先機関との連携が適切にとれている <input type="checkbox"/> 事前に打ち合わせ・ミーティングを行う <input type="checkbox"/> プログラム・見学の趣旨が共有されている <input type="checkbox"/> 見学先のルートなどについて確認が取れている <input type="checkbox"/> 取材ノートの内容について共有がされている	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
10	<b>1回のプログラムで参加する人数</b> <input type="checkbox"/> 原則として1回のプログラムは40人規模のクラス単位で通常の教室（またはそれに準ずる場所）で行われる。 <input type="checkbox"/> 1回のプログラムの最小規模は10人とする。 <input type="checkbox"/> 参加人数が40名を超える場合は、プログラムの実施時間をわけて個別に実施するか、大教室を利用する。	プログラムの1回の参加人数は100人以上もしくは10人未満	プログラムの1回の参加人数は80人以上100人未満もしくは10人以上15人未満	プログラムの1回の参加人数は60人以上80人未満もしくは15人以上20人未満	プログラムの1回の参加人数は40人以上60人未満もしくは20人以上30人未満	プログラムの1回の参加人数は30人～40人

## 【教育プログラムの内容について】

<b>11 全体の構成</b> プログラムは以下の4つの構成を含む。 <input type="checkbox"/> 教育的カリキュラム <input type="checkbox"/> 見学 <input type="checkbox"/> 見学振り返り <input type="checkbox"/> 当事者からの講話	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
<b>12 教育的カリキュラムの内容</b> 生徒にメンタルヘルスについて教育するために、標準化されたカリキュラムを用いる。カリキュラムは4つの主題を含む。 <input type="checkbox"/> 1) ストレスと精神疾患 <input type="checkbox"/> 2) 専門相談機関に関する説明 <input type="checkbox"/> 3) 悩むことの意義 <input type="checkbox"/> 4) 当事者からの講話 <input type="checkbox"/> 5) 相談機関の見学	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する	チェックボックスに5つ該当する
<b>13 ストレスと精神疾患についてのプログラム</b> 1限のカリキュラムはストレスと精神疾患に関する以下の内容を含む。 <input type="checkbox"/> 精神疾患の生涯有病率 <input type="checkbox"/> ストレスとストレスに関する説明 <input type="checkbox"/> ストレスが持続的にかかった場合におきる状態としての精神疾患 <input type="checkbox"/> ストレスの個人差 <input type="checkbox"/> 代表的な精神疾患に関する説明 <input type="checkbox"/> その他、ストレスがかかった場合におきる精神的不調	チェックボックスに該当するものが1つ以下	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する	チェックボックスに5～6つ該当する
<b>14 専門相談機関についてのプログラム</b> 2限のカリキュラムは以下の内容を含む。 <input type="checkbox"/> 相談機関の位置付けに関する説明 <input type="checkbox"/> 精神科医療機関に関する説明 <input type="checkbox"/> 行政機関に関する説明 <input type="checkbox"/> 福祉系の事業所に関する説明	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
<b>15 「悩むこと・相談すること」の意義に関するプログラム</b> 3限のカリキュラムは以下の内容を含む。 <input type="checkbox"/> 自己を成長させる創造的行為としての「悩み」の意義付け <input type="checkbox"/> 思春期におきがちなる悩み <input type="checkbox"/> 相談する行為の意味づけ（情報の整理・アドバイス・カタルシス・視点の変換） <input type="checkbox"/> 当事者からの講話	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する

16	<b>当事者からの講話</b> 精神疾患・メンタルヘルス上の問題の当事者から以下の内容についての講話がなされる <input type="checkbox"/> 早期に相談することのメリットが語られる <input type="checkbox"/> 相談に関する実際の様子が語られる <input type="checkbox"/> 疾患・悩みをもつことが特別ではないことが語られる <input type="checkbox"/> 精神疾患をもちつつも希望や生きがいをもって生きていることが語られる	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
17	<b>プログラムの順番</b> 上記プログラムは原則として1) → 4) の順番で行われる。 (見学プログラムは2) の後に行われる)	プログラムの順番が守られていない・順不同	/	/	/	プログラムの順番は守られている
18	<b>プログラムの時間</b> 上記プログラムは原則として1回の講義を45分以上で行う。	1回のプログラムは90分以上もしくは30分未満	/	1回のプログラムは60分以上90分未満もしくは30分以上45分未満	/	1回のプログラムは45分以上60分未満
19	<b>マルチメディア教育</b> 教材は、いくつかの形式からなり、学習効果を高める。 <input type="checkbox"/> 文書・資料の配布 <input type="checkbox"/> スライド (パワーポイント) <input type="checkbox"/> ビデオの使用 <input type="checkbox"/> 小道具	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
20	<b>具体的な体験型プログラムの導入</b> <input type="checkbox"/> ストレスに関するディスカッション・グループワーク・自分にとってのストレス体験 <input type="checkbox"/> 講義内容に関する振り返り <input type="checkbox"/> 支えあいの体験	チェックボックスに1つ該当する	/	チェックボックスに2つ該当する	/	チェックボックスに3つ該当する
21	<b>相談機関の見学者の数</b> 対象となるクラスのうち見学者が一定の割合を占める。	見学者は全体の10%未満	見学者は全体の10%以上15%未満	見学者は全体の15%以上20%未満	見学者は全体の20%以上25%未満	見学者は全体の25%以上
22	<b>相談機関の見学の内容</b> 相談施設の見学内容は、以下のものを含む <input type="checkbox"/> 相談機関の内部の見学 <input type="checkbox"/> 施設のスタッフからの説明 <input type="checkbox"/> 見学ノートへの書き込み <input type="checkbox"/> ロールプレイ ※見学ができない場合は、上記の内容を含む代替学習を行う。(ビデオによる疑似体験など)	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する

23	<b>見学の共有</b> 見学者の体験を共有する以下の取り組みがなされる。 <input type="checkbox"/> 取材内容を見学者が発表する <input type="checkbox"/> 取材ノートの内容が共有される（スライド、資料の配布など） <input type="checkbox"/> スタッフからコメントが提示される <input type="checkbox"/> 見学に行っていない生徒からの質問時間が設けられる	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
24	<b>スタッフの役割</b> スタッフは、以下の役割を果たしている <input type="checkbox"/> ウォーミングアップを通し、和やかな雰囲気を作る <input type="checkbox"/> 質問や発言をさくなど相互的な授業を目指す <input type="checkbox"/> 生徒の発言・質問に対し、スタッフが反応する（声に出してうなずく、肯定的なコメントを返す、感想に感謝を述べる） <input type="checkbox"/> ディスカッションを要する場面では、発言していない生徒にも話題を振り、グループの相互作用を促す <input type="checkbox"/> 生徒自身がどうなりたいかに焦点を当てて話し合う	チェックボックスに該当するものが1つ以下	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する	チェックボックスに5つ該当する
25	<b>プログラムの評価</b> プログラムは評価票で、以下のように評価・調査される。 <input type="checkbox"/> 事前調査（生徒） <input type="checkbox"/> 事後調査（生徒） <input type="checkbox"/> プログラムの満足度調査 <input type="checkbox"/> プログラムに対する意見	チェックボックスに該当するものがない	チェックボックスに1つ該当する	チェックボックスに2つ該当する	チェックボックスに3つ該当する	チェックボックスに4つ該当する
26	<b>授業に関する集中度</b> プログラムに参加する生徒は、一定の集中力をもって参加している。	私語や居眠りはほとんどみられない	私語や居眠りはわずかにみられるが、プログラムの進行を妨げるほどではない	私語や居眠り聞こえ、集中力を喚起するための講師による注意が2、3回必要である。	私語がかなり聞こえ、集中力を喚起するための講師による注意が頻繁に必要である。	私語がひどく、講師による強い注意、または学校側の教職員の注意が必要である。
27	<b>プログラムの事後の振り返り</b> プログラム後、学校の教員と振り返りがなされる。 <input type="checkbox"/> 調査結果の共有（報告書・プレゼンテーションなど） <input type="checkbox"/> プログラムの課題・実施後の様子などのディスカッション <input type="checkbox"/> 実際の事例に関するフォロー体制作り	チェックボックスに1つ該当する	/	チェックボックスに2つ該当する	/	チェックボックスに3つ該当する
28	<b>長期的フォローアップの実施</b> プログラム1年後に以下のことが実施される <input type="checkbox"/> フォローアップの教育プログラムの実施 <input type="checkbox"/> フォローアップ調査の実施	チェックボックスに該当するものがない	/	チェックボックスに1つ該当する	/	チェックボックスに2つ該当する